

地域の連携・協力による良好な 河川の保全のために

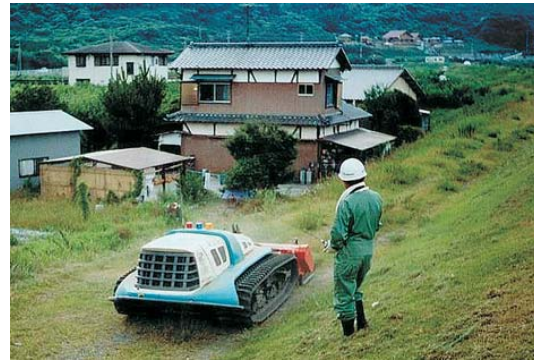
みなさんの理解を得ながら堤防や高水敷の定期的な除草を行います

大雨の降る梅雨期、台風前をめどに行い、堤防の保全や損傷箇所などの発見をしやすくします。また、堤防を道路に利用している場所の路肩では道路管理者が除草を行っています。除草の時期については合わせるように調整していきます。

刈った草は腐葉土*化を行うなど、資源の有効的な利用を促進します。



腐葉土をみなさんに提供し、畑などに利用していただいています



遠隔操作による法面除草作業

河川利用の安全性を高めるため、危険区域や安全な利用方法などについての情報提供や啓発を行います



啓発看板の例

不法投棄*については河川巡視の強化などの対策を行います

課題

近年、紀の川の高水敷などでは電化製品などの不法投棄が増加しています。

対策

河川巡視を特に休日や夜間に強化するとともに、みなさんや警察、自治体などの協力を得ながら不法投棄を防止していきます。



不法投棄の状況

誰もが安全で安心して利用できるように努めます

河川公園など河川利用者の多い場所では、これまでに進めてきた坂道の傾斜をゆるやかにしたり、階段に手すりを設置するなどの改善を引き続き図っていきます。



手すり付きの階段の事例



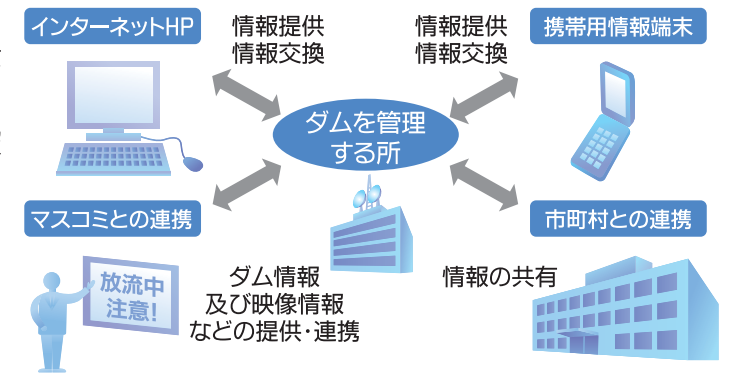
スロープの事例



日頃からダム・堰の情報提供を行い、河川利用者の安全を図ります

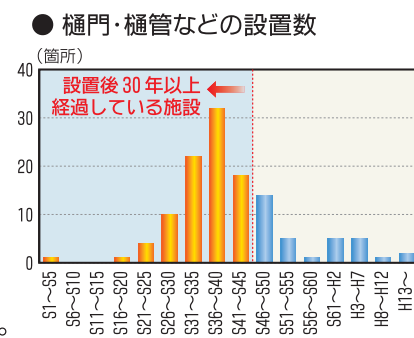
大雨が降ると川の水位が急上がるため、河川利用者も川の状況を良く知り、安全な場所での利用や早めの避難行動が必要です。

そのため、洪水時も含めて日頃の河川情報を提供していきます。



樋門、樋管*などの計画的な補修を行い、安全を確保します

紀の川の直轄管理区間には約170箇所の樋門・樋管などがあり、その半数以上の施設が設置後30年以上経ち、老朽化が進んでいます。施設の機能を保持するために計画的な点検を行い補修などを行っています。



樋門の補修(西川樋門)

河道内の樹木は、学識経験者やみなさんと話し合いながら伐採していきます

課題

河道内の樹木は、洪水が流れるのに支障となっている一方で、鳥などの生息の場となっています。

対策

河道内の樹木の伐採については協議会(学識を有する者などにより構成)を設立して基本方針を作成し、この基本方針をもとに学識を有する者、関係自治体、地元代表者などの意見を聴きながら伐採を行います。



高木化した河道内樹木

河川公園などの河川敷地の占用*は治水・利水・環境の視点から行います



占用の事例(せせらぎ公園(和歌山市))

河川空間利用状況 (平成12年度 河川利用実態調査結果より)

